

巻 頭 言

今年、本教育相談・支援総合センターは20年目を迎えた。この間、本センターは社会や地域貢献、学術的貢献を教育の現場から実践し、どの取り組みも対面で行われてきた。ところが、今年度に入りCOVID-19の感染拡大予防対策として、対面実践が難しい状況に陥った。

COVID-19は、たとえ罹患していない方にも、生活面のみならず心身に影響する。コロナ罹患への不安が発生するからである。本センターとしても、そのことに目を逸らすわけにはいかない。そのため、たとえwithコロナであってもbeyondコロナ・impedeコロナを心がけ、必要な支援を実践することとした。

具体的には電話による相談が増えた。さらに、他機関の専門家から学術的な裏付けがある助言の依頼、我が子の発達査定やプレイセラピーの依頼などを受け、多岐にわたって支援してきた。そのため、センターに関わっている教職員のみならず、臨床心理士及び公認心理師を目指す院生たちや修了生達と共に、安全を最優先して相談活動を実践している。

本研究論集は2019年度のセンターでの相談や支援活動の成果等を報告し、学内外の方々に参考として供するものである。さらに、関係者の研究成果も掲載されている。

本研究センターおよび研究論集が学術と社会貢献のネットワークの結節点として機能することを願う。

今後も多くの方々のご支援を心よりお願い致したく思う。

教育相談・支援総合センター
センター長 井上果子